

令和4年度 心に響く人生の達人セミナー

1.目的 実社会の第一線で活躍されている方から、経験を交えた実社会の厳しさ等についての話を
していただくことにより、生徒に21世紀をたくましく生き抜く力を身につけさせるととも
に、人生観や倫理観、職業観の醸成に寄与する。

2.日時 令和4年10月13日(木) 14:00 ~ 15:50

3.講師 加藤 剛 (本校7回生。住友林業株式会社 理事 資源環境本部 副本部長)

4.演題 「熱帯林で学び、地球環境問題対策を考える」

5.内容

- ・住友林業の取り組みとして、二酸化炭素の排出を抑えるために植林事業を行っており、そのことを中心にお話いただいた。
- ・地下の貯水量が地域によって異なっており、現在ブラジルや東欧の水が少なくなっている。これは食糧問題に発展する可能性があるため、早急に対策が必要である。
- ・加藤氏は大学院時代は4~5年インドネシアの山中で過ごし、ジャカルタで3年過ごした後、住友林業に入社。住友グループは別子銅山の開発を転換点に、1691年に住友林業が創業され、大造林計画を行った。
- ・インドネシアには水が8、9割を占めるレンズ状の泥炭地が広大に広がっており、植林には向かない土地である。水を抜いて植林を行っていたが、土に栄養がない上焼畑農業ですぐに焼けてしまうという問題点があった。そこで、1800キロ歩いて調査を行い、5年をかけて50センチ間隔の等高線図を作り、ブロックごとの水を管理した。また、14万5000ヘクタールにわたってボーリング調査を行い1600か所の泥炭の炭素量を調査した。その結果、管理区には一定量の水がいきわたるようになり、その成果はインドネシア政府にも評価されている。
- ・住友林業が植林と同時にインフラ整備を行っているように、現地に住む者に恩恵がなければ意味がない。持続可能な気候変動対策にはビジネスの視点が必要である。
- ・本気でやろうとしたときには誰かが助けてくれる。諦めなければ何かができる。大きなことを掲げる必要はなく、小さなことでも挑戦してほしい。いろいろな形で社会に貢献し、自分のやっていることが世の中のためになっていると感じながら行動できるとよい。

